

地

二五二  
六



高島志賀

291.19

185

Vol 7止



引新佐ヒケルヲ孝謙天皇ノ弓削彦鏡ヲ大師ニ進メ押勝討伐ト  
メ高橋下レ信哉アリ押勝敗軍メ東近江ニ退去ラント亦ニテ退玉ツ  
処道鏡竹生高ヘ立死メ吹庚シ玉ノト祈念アリケト即途海ヨリ吹  
戻サレ本ノ高橋郡飯日村飯日村於テ戦死ト云此処ニ祓祀  
奉リ土社大明神ト号ス云々

夜中浮

田記ヤリ

万葉集

不夜文ヤ夜中の浮よおほくくほくふくふく入海せんくも

素原の原

田記

藻塩草



皇の近代の流ききり、東京北渡田の夜夜なるをせぬ

小川 小川の城、信長公より、戦時丹波を負、其賜り、佐保山ヲ開、是

キ丹羽立帝、長考、渡、此処、在城、後、丹羽男子ヲ持、信長公  
ノ一族ヲ養子ニ申、受相、鏡、元由、負、其、浅井三代共、志切、第一、殊  
ニ、城、川、合、戦、大、切、ノ、開、へ、り、高、清、へ、處、替、メ、後、記、ニ、見、へ、鐵、田、七、兵、車  
尉、信、澄、ヲ、娘、子、智、ヲ、家、ヲ、立、任、せ、り

堀川 此処、河、弥、陀、寺、ト、云、寺、アリ、惠、心、僧、都、ノ、開、基、天、台、宗、ニ、名

高キ、田、記、ニ、一、説、兜、ノ、河、弥、陀、院、ハ、申、久、由、危、ニ、遺、緒、アリ、由、也

伊黒 伊黒ハ、新、庄、法、泉、坊、在、城、ハ、浅、井、長、政、ノ、政、崩、サ、レ、後、ノ、番、子、持

ニ、リ、元、龜、元、年、志、賀、陣、ノ、前、コ、ニ、テ、浅、井、領、倉、ノ、兩、大、将、軍、許、定、アリ

テ、是、ヨ、リ、坂、本、一、考、陣、ノ、由、也

石津 石津、助、立、而、行、安、建、武、比、記、ニ、出、リ、其、後、ハ、記、ニ、見、へ、

朽木 朽木氏ハ、佐、木、ノ、分、系、出、羽、与、氏、綱、公、ヨ、リ、教、世、代、ニ、相、統、メ、氏

部、少、輔、桂、綱、ノ、公、方、氏、植、ノ、ノ、辭、ノ、字、ニ、賜、テ、ヨ、リ、宮、内、大、輔、定、綱、信、徳、与

元、綱、河、内、与、息、兵、部、少、輔、權、之、存、監、物、代、ノ、公、方、ト、世、考、之、与、同、ニ、是、先

方、家、其、外、ヲ、勤、カ、ク、代、ニ、居、任、相、統、メ、リ、朽、木、氏、ノ、家、才、之、桂、綱、ノ、代、

氏、澄、乃、軍、氏、晴、乃、軍、細、川、高、国、朽、木、家、ヲ、頼、テ、大、永、七、年、ヨ、リ、享

祿、三、年、ト、居、任、ニ、其、中、ニ、好、家、ト、高、国、萬、川、合、戦、アリ、テ、細、川、敗

軍、ニ、朽、木、父、子、公、方、ハ、大、忠、切、武、勇、アリ、永、正、十、年、高、清、越、中、与、大

満、合、戦、ニ、戦、切、リ、淺、井、三、代、記、ニ、佐、木、民、部、ト、リ、ハ、桂、綱、ノ、子、也



千首

宗良々

五月五日川名立くち河や朽木北朽木引人のれ

類聚

土御門

如紫々昔北流と為ひてや朽木北朽木若るはうけ

夫木

公館々

赤波の火山名北志めゆふ朽木の如北志並りうも

海津 海津北北国往来の津湊之浅井高橋ノ境此庄ノ申三由ナ

みより安部晴明カ加持シタレリテ此処ニ敷ナレ処ノ名モカイズイ云カラ名

付シト云傳ヘタリ又此処ニ野生ノ大根アリ

堀川後百首

仲実朝臣

有乳山名京北てまなもまよふは其津北まよふ礼傳傳

海津長門守政元代之此処ノ領主之浅井亮政ノ聲ニテ築路之才信

流守政我ハ大満ノ城主之此処ニ營居セシカ記ニ見ヘク昔此処ニ万

貫長者ト云富人ナル由其由来遺流今ニ謂ニ残ルイ名カルト云

又此処ニ温泉アリテ湯人湯浴ス湯屋ノ谷トテ今ニ其処残トリ

香津 淡辺之或防此処ノ海より太カ一振綱ニカコリ上リタリ銘ニ治養

四年作柏原路ニ而為永所持也トアリ為永ハ兼久ノ乳ニ佐々木

山城守廣綱ノ築路之ニカ尾張川ニテ佐々木信綱ニ討トタリ此太カ

屋形ト上ル処柏原美作當時永ニ賜リテ家室リス坂田郡柏原

家室代ノ名叙ト云



真宝寺

此処ニ盧堂玉師ノ廟アリト云盧堂ハ禪宗ノ祖師ナク此堂既  
也ニ廟アルヘキヲ此処ニアルト不審コ又播磨國赤松家源人ノ寺也未  
リ屋形ヲ頼寄ニ故高海郡ニ堪忍方ノ領ニ多ク至レシ由今其処  
何ウカ知レズ常ノ屋形ノ近習ニ至レ赤松ノ遺跡ト云由其孫源モ知  
レズ又善積郡ハ近江ナリ郡ノ一郡ニ云ハ高海郡ノ内ニツニ成テナク  
七村ナリ由高海郡善積ノ庄ト云傳フ云ヘリ東近江蒲生社志  
ノ郡清水鼻ト樵尾ト間ニ善積ト云処只ニ反ナリ由ト此モ實  
説ハシ難シ東鑑ニ中系信房ニ善積ヲ下サレ領スナリ又文章博  
士大外記中系師弘中原寺ヲ建立シト別記ニアリ中系安藝云云貞  
行天文永祿以前ノ記ニ出テ屋形ノ縣改メ之ニ云ニテ軍後中原ハ善

積ノ内ニ

高海郡終

志賀郡

息間寺

始ハ正法寺ト云元正天皇勅ニ由テ恭澄大師ノ開基ニ本  
尊ハ土面親音金佛ノ像ニ願礼ナリ番ノ札所ニ堂前ニ桂ノ大木アリ  
古來ヨリ名高キ灵木ニ境内山深ク殊勝ノ地ニ下ハ勢田川ノ末流ニ  
テニ豆尾ノ滝ト云処暇ナリ見ニ是ヲ守治ニ近ク上ノ醍醐近所眼  
前ニ

石山寺

願礼ナリ番ノ札所ニ孝謙天皇ノ勅ニ由テ良辨上人開基  
トノ門前ニ影向石比良大明神ノ釣臺石アリ故ニ石山寺ト号ス

志賀郡



より紫式部当寺ヲ信仰シ源氏物語此寺ニテ成範ノ寺ノ堂  
再興ハ江北津井橋前当長政ノ息女造當コ

新古今

長能ハ

都より人々訪へん山北たけよ秋のふれ月

夫木

為家

あひらききむ此堂よ見はる武らる山乃此れ有歌

門前河内川源ハ名所トテ近年法人新ヲスアラ痛ノ茶師

トテ橋田下石山ノ間ナリ昔松人此石佛ヲ破下メ寺ヲ廢ケレバヲ痛

ヤト云言タタリ夫ヨリ名トメ法人寺作ス

橋田 橋田ノ里ハ栗本郡ノ由志賀郡ノ川西ニ里アリ橋田橋名高

キ橋ニテ古哥多シ

愚草集

定家ハ

米とこめ不期立旁れひあゝは苑ノ見ゆる勢田の長橋

夫木

為家ハ

鈴ほくを橋よお紀多波の上ニ霜おき後を吹田北長橋

山吹ノ花 此山ニアル由存文シカニ知ト古方アリ

栗津 元暦ノ昔木曾左馬次長仲此処ニテ戦死ニ即其塚アリ今

丹波仰兼平モ同ク討死ス今田ノ中ニ塚アリ木曾殿ノ妻ハ此処ニテ別

ト本國ニ返リ後和同我盛ニ嫁ラズ之リ巴此前信濃ニ木曾殿ノ

息男ヲ産ケルヤ亦栗津ニテ別ノ所姫テ國ニ下リ生ケルヤ木曾ノ嫡男カ



ヲ立テ天正年中ニ木曾三郡ヲ領シ左馬頭高橋男民政相統ナ  
リ信長公御地界ノ後行方ヲ知ラズ記録等ニ見ヘス

栗津三郎ノ昔平氏ニ属シタル由記ニ出ツ近代ニ栗津ニテ兵衛晴綱乃  
松院殿ニ属ス同甚三郎甚仙才代父子ノ光原院殿ニツクハ我將  
軍ノ御切腹ノ所同内ニ死ス記ニ出タリ同原兵衛ノ屋形ニ属ス武切多シ

家集 平兼盛

こめき里の志されや君よ家栗津の東北何ぞうの礼を

六帖 汗巻

あそびのこころあは栗津はこれ小萩の井小我のしるし

夫木 能宣々

栗津の栗津北東の松花昔の志もかくやにわが

後高松院御製

雪深き栗津の東北雪言ハ巧を以テ高もよふこと

鍋山 処サタカナラス 金葉集

をいよもむとふたも鍋山君ハ我りんと稀くさし

手向山 此モ知知レス 類聚ニ伸正

吾君たの相板山の境あるも手向北山よ家名りそ免我

後高松院御製

今知見礼ハ若れ志す木橋をけて今も水も向北山流るる

深寝カ原 コレモ此近処ニ 夫木ニ 伸業



逢坂の岡やいさくく人公浮祿の系よちと逢ふくむ

膳所

此処日吉山王御祭礼に供御の儀奉ん故膳所の名付りと古例

通り今世に愛うえ此処より筑里に此城の天皇御後菅沼城郡正名川

主殿況今之本多氏城主と

屏風浦

此処にらん名所と

方与集

神正々

立らる屏風の浦北を家世よ逢坂北関のあさく

松本

昔高木貞宗ト云鍛冶マニ住下云又政治郡正造ノ庄高木村

臣云又ハ蒲生郡豊浦ノ庄高木氏云慥ナリ知トク昔此処ニ松本ノ長ク

高木大木アリシ故松本高木ト云由也

大津

此処昔大智天皇天武天皇持統天皇三帝御坐ノ都之故也

近辺旧志多シ往古より東路越路往還ノ渡故ト大津ト呼之申比大津

主膳正同高木又大津彈正同傳九郎同傳十郎等記云元ノ屋形

ノ作テ代官托控ニ駒井氏ト此処ニ至玉ト代々居住シ栗本郡ノ駒井

ノ嫡家任セシム故ニ駒井ト改テ大津ト屋形ノ作テ名棄由ト慶長氏ト

此処ニ城アリテ京極宰相高次城主ナリシカ関ヶ原陣ノ節西元元數百

ノ軍兵以テ攻ラレテ高次ノ譜代江北元馳集リ強ク防戦シ堅固ニ

尾城ニ江北内ニ山田大炊治多實赤尾新吾後若尾村津井泉臣也ト云

赤尾貞作等カ息ノ淺見藩士也此ハ江北淺見討馬方カ族類ト

黒田河守等此ハ坂田郡黒田ト真村源内塩津外記落合主税等



九里佐々弥之強ク働ケルハ大軍ノ西國元政アリト扱メテ無事  
ヲ調ケル也

大津ノ鎌貫ト庭訓ニ出タル泉井ニ今ニ存スル人ノ遺跡ス

名寄 菖菫

昔乃不禮ニ云ル礼平波也大津北宮ノ白木橋

拾玉 菫

音羽山原キ最モ多ク礼平波北宮ノ在ル花園

打出ノ溪 大津ノ溪ヲ云フ也

拾玉 菫

春ノ波打出ノ溪北溪凡ハ花咲山ヲ志ス北山祇

名寄 頭照々

約ト云フ打出北溪也尼後ニハ然リヨモ高クモ志ス乃津波

相坂 相坂ノ昔園処ニ大津ノ都ノ比始リト云フ園ノ初ハ文德天皇天智元

年四月ニ建ト云フ園ノ相坂園龍華ノ堂大石ノ堂是ニ山高ノ園ノ河

内ノ葛和ノ園ニ同所ノ由之終唐園磨針ノ園柳ヲ成ノ園天ノ根

ノ園等ハ何レノ為ニ建ヤ時代ニ知レズ不破ノ園ハ清見京ノ王子大友

ノ王子ト合戦ノ時始リ建ト云フ

山家集 西行

今ノ日ハお坂山北霞ぬらハ立おケル花ハ哉キ人

建 保 定 菫



忍子松尾坂山の甲斐之を愛杖此古松也云々

詠 兼 藻

後 成

蓬坂と就て一山也中一山也此山波神より

名 寄

東 隆

相坂の冥化居乃翠此者ふるき指此山凡そ

拾 玉

並 法

東海と遙く来つるひきて都北人よ蓬坂の園

輝丸此園の辺ニヤヤレキ草菴ヲ繕テ住ケル由輝丸ニ延奉帝中

四王子之下云傳フ今開ノ明神ト云是下又四宮明神云四宮川系三

宮ノ内正史ト云者天文ノ比ノ記ニ出代ニ此処ニ住居由四宮茂共由今ニ

此處ニ磐居スルコ

小形山町此相坂園寺ノ辺ニテ死セリト云リ出羽郡司小形好実最

上ヨリ上京の時当國王造ノ庄小形ノ宿ニテ女ニ行逢シテ連テ上リ養

育ス後此ヲ小野ノ名付ク出京ハ大上郡ニ存ニ不町カ塚トテ此山形ノ宿

ニ石塔アリ是ハ好事ノ者後ニ名付シト見ユルコ

関ノ清水 今処サタカサラス旧記ニテ古名共ニ多シ関ノ小川ニ此辺ニ

走井 相坂ノ内ニコノ井平寺在云云

堀川百首

源俊賴御長

走井の子植此旁ハ多れヒをト是第ヨリんものを月比島

夫 木

清輔御長



三井の宛北名氏流しと云哉と云ふ事ん也故此也

三井寺 當寺の神創大友の大師那須羅摩皇福寺より移し

建給つ天智天皇大津部御防之天智天皇持統天皇降詔

此寺境内の岩間より出れ泉井ヲ汲テ産湯トシ奉ル故三井ト云

三井又御井に昏ト云ヘリ神創より九年過テ教待和尚ヲ大友氏招待ア

リテ百六十二年ヨリ任持ス之リ貞觀年中大友氏妻トテ勅致所

トナリ園城寺と改号ス此寺山門下度々戦其外兵乱ノ事記ニ詳ニ

當寺の願礼古書九所ニ此寺の鐘、籠宮より秀那將王ト云云寄附ニ

志賀 新羅明神此庄に神鎮坐之昔陸奥守原頼氏公信仰アリ

テ三ノ男ヲ寺社ト云子リト新羅三郎孫光ト云ノ男ト云清水ノ氏子ト

信太師我孫ト号シニ男ト加茂ノ氏子ト加茂公而義宗ト号セリ

三郎殿ハ孫ニ信仰ニ志賀ノ庄ニ村命ト来リ任由ニ新羅我孫

源ノ甲斐武田一源常陸ノ佐竹一源當國ニ山本一源ニ山本ト云村神法

郡建部在リト我孫公孫山本を以テ我孫一法井郡山本村ニ在城ト

云又志賀庄山本錦織ト云村アリ是ニ孫光公息男孫葉孫定嫡男ト云

孫恒根冠者孫兼錦織冠者孫高皆此志賀ニ在任ト云説テ錦織トニ

流リ近代周防古き及古名ト云ハ法井郡之民部少常孫原太郎

孫五郎ト志賀ニ往テ湖水ノ網奉行ト

志賀ノ都ノ高元徳ノ宮ニ景行天皇都ヲ建五ニ成務天皇ニ此処ニ

皇居在テ代ノ都ト云又爰ヲ樂波ノ都ト申ケルニヤ



萬葉

高市

古くよ我多くめ也高波比田中都と見れぬ也

同

高波の志津石津比浦さして所是なる都見れぬ也

志賀寺 天智天皇七年に崇福寺建つた此寺より下云処の名に依り

志賀寺の所を昔は火如藍地にて寺領を封じ戸田一丁畝寄附

ト記し出たり山門周城寺と名つた大地と云今ハ磐石路也

志賀氏ハ岡山屋形成頼公の三男成徳元祖の惣ノ佐々木分系

始ノ元暦年中ノ記出ツ志賀九郎代ノ相統ニ此派世々多シ此処ニ傳

ハ志賀山城守久々息山城守頼造甚内丸也志賀當國ニ馬ノ宗

方名人ニテ譽ノ家ノ志賀丹後守宗光同若狭守記ニ出ツ若狭守ハ後

信長公ニ屬ス志賀五三右衛門ト書吉公ニ出付たり兼山合戦ハ大剛強ノ

譽アリ大剛記ニ出ツ此ノ能ハ神高郡御所園之庄ニ住リ下云弘治二年山

王宗ニ三好長慶家入五才才宗見物ニ出ル當山屋形ノ元モ多ク見物

出或ハ志賀郡元ノ宗礼ノ後人モ多ク見物ニ出ル時ニ三好元口藩ヲレケレ

自和ニ後レテ取ラセシメ國元何レモ押取込テ五才才ヲ悉ク討果シケル

長慶ハ在京上ハ之聞テ大ニ怒リ山中越ラテ騎走ニ三好元口殘ラズ馳來

リ先陣早合戦ニ取結テ當國元近辺郡東郡ヨリハ舟ニテ宗我御前掛

ニ馳寄リ元程ニ方宗人及下三好方モ前後揃テ一万余才討テ三好元

ハ憤怒シケレシキ事ナレハ夫ニ庭ニ必死下切掛リ火花ヲ散メテ亂レ討ツ討



レツお戦志賀元坂本元大津在番元案内幼者ナリ諾リ〜一攻  
菟切立高鉄枕ヲ構サシ打掛山ニ追上ケ渡ニ追不シ勇進テ攻諾大  
半討取レハ好方叶ハ山中戦ニ逃落ル後シ或者ヲ追諾案内幼者ナリ  
余討取ト味方モ首余討レハ不意ニ大合戦ナリ又追自取合支  
度双方方ニ勇ケルカ此由公方関名御扱アリテ漸ク無事ニナリ元  
此陣ニ志賀郡山城ヲ頼佐ノ家坂本七人元新骨ヲ渴シ誓アリ感状  
アリ権琴ノ和同比良田中坊真光堅田元和尔金ノ坊大津在番元  
河モ武功アリ感状賞地ヲ得ルノ詳本記ニ見ヘテ我晴將軍我輝  
軍御父子ニハ同坂本却旅陣ニ置テ山神ヲ城ノハ元大ノ記ニ詳ニ志賀  
宇佐山ニ信長公攻取レ先方志賀一族ヲ追放リテ森ニ居ルニ余多クカ

ヲ付テ北國ノ押ハ又叡山ニツメテ爲ニ終主トシ与國先方降参元モ青地  
駿河也子領ヲ始メトカ付テ天又ノ比尾元浪人武藏左近兵衛ト云者  
尾形ニ歎テ幕下ヲ致テ故志賀近近ニテ五百貫ヲ賜テ指立レケルカ今度  
森カ与カ付テ武藏左近兵衛ニ此左近ノ子ナラン元龜元年五月城川合  
戦ニ鎧着元不覚敵津井員ニシテ一ヲ悔メ大坂本願寺ニ好一族ニ兼  
テ鎧着左京大夫我景ニ云合也長政防部ヲ待処ニシ好一族唯田福爲  
兩城ニ居リ頭如上人火板ニ居リ威ヲ振ル由信長関名ヲ數方ヲ卒ニテ  
横津ニ起ル知津井長政致テ処ノ防部ニ下鎧着元之合也津井尔右  
ヲ考テ高橋ヲ鎧着ニ出合約束ヲ定メ高橋ヲ伊思ノ城ニテ兩將對談シ  
比叡山ヲ居ニシ高橋ヲ立テ元龜元年九月七日坂本ヲ看山門ニ案内シ



聖太子在佐山、表ヲ攻討テ上洛ニ極力テ知ノ城ニ云合シニ戦スヘシト  
西將三方、美ノ中ヲ武切者ヲ撰ミ、宇佐山ヲ取カケル表ハ名高ノ勇將  
ナク、聊臆セ、防戦ヲ明クシ、然るに、元太ヨリ、浅井ハ幸高ヨリ、攻ヨリ  
表強ク、偏テ、鉦舎勢引危ニシ、江北ノ浅見、對馬、中津井、云、常二千  
余、人馬、烟ヲ立テ、横巻ニ討テ、カ、ル表、叶ハシ、引危ニシ、然るに、中津井、大、又、山  
高、長、川、中、河、波、賀、三、部、荒、カ、ル、表、カ、ル、浅、井、モ、器、本、ヲ、以、テ、如、ク、リ、付  
テ、棄、取、テ、ス、表、之、ヲ、見、テ、城、内、ニ、使、テ、立、門、ヲ、堅、メ、テ、也、ル、シ、討、死、シ、年、下  
云、遣、シ、必、死、ト、取、テ、返、シ、比、類、ナ、キ、効、ヲ、討、死、ス、表、ニ、統、テ、城、内、九、部、ト、地、段  
河、中、水、カ、家、人、尾、友、原、内、同、又、八、道、家、清、才、ノ、同、カ、ナ、ク、等、戦、死、ス、浅、井  
物、倉、勇、進、テ、宇、佐、山、ヲ、取、卷、ニ、之、九、ト、攻、入、セ、レ、ト、武、後、カ、ル、馬、肥、田、云、昔

六

亮、身、命、ヲ、抛、テ、防、ケ、ル、攻、落、ス、ナ、リ、繼、ク、押、テ、討、死、シ、日、ニ、大、津、ニ  
出張シ、日、山、科、ノ、庄、暇、暇、ト、押、出、シ、恙、ク、放、火、シ、日、夕、カ、ル、山、門、ヲ、引、取  
ル、信、長、公、之、ヲ、聞、テ、概、津、國、表、ヲ、引、拂、ヒ、至、テ、知、大、坂、ヨ、リ、北、四、ノ、宇、佐、山、ニ、着  
陣、シ、其、ヨ、リ、冬、陣、ヲ、張、キ、月、廿、日、ト、旅、陣、知、堅、田、士、精、領、甚、カ、馬、場、原  
ニ、御、居、初、又、ニ、御、之、謀、殺、ヲ、企、信、長、公、ハ、忠、節、ヲ、タ、ク、シ、申、入、テ、大、坂、井、右  
近、ヲ、堅、田、ニ、遣、シ、浅、井、鉦、舎、兵、糧、支、配、ノ、者、ヲ、上、下、百、五、十、人、矣、庭、ニ、攻、殺  
シ、北、國、ノ、道、路、ヲ、塞、信、長、公、悅、テ、近、日、勝、負、ヲ、決、セ、ト、ス、我、宗、長、政、之  
ヲ、聞、テ、鉦、舎、武、部、大、丈、山、高、長、門、中、カ、ル、三、千、年、人、淺、井、云、若、亮、ニ、赤、尾、良  
治、等、ト、云、是、都、合、五、千、人、ニ、堅、田、ニ、押、寄、テ、刻、攻、メ、攻、テ、搦、破、堀、井、志、近、ヲ  
討、取、馬、場、原、初、精、領、之、ヲ、モ、討、取、リ、其、外、カ、ル、首、ヲ、捕、テ、山、門、ニ、飯、陣



ス此所公方邦極ニテ双方和睦アリテ相引退散ス

幸濟

此処是心松リテ名水アリ山王ノ御神木之昔アリゴノ若く由来一  
説アリテ則吉野明神社アリ山王祭礼ニ粟飯ノ供濟テ此社ニテ献テ云  
六月晦日ニ江南仰山城園と考詣シ御扱ス

新六帖

衣笠

歌子ニテ平心ニテ下照リ礼ノ如ク立テ居高此松

夫木

為家

安平代の志をいなりしなりしむきふる神化ゆ年の幸高の松

大和田

古流之

名寄

人丸

木波也志賀の大和田とむむも昔此人よ又とあまぬ也

比叡山

此山天竺ノ灵鷲山ヲ写シ給テ云又天台山ヲ兼ル云桓

武天皇延暦七年傳教大師開基ニ傳教ノ当郡志賀ノ三津原ノ

人ノ父ノ初枝ト云ヘリ其先祖ニ東漢ノ献帝孫淑ト云ヘリ神天皇異玉ノ

壬氏タラシテ志賀郡ニ遷給テ云レヨリ相統メ三津原ニ代々居住ト云

山王ノ神方共又大師ノ詠文氏云ヘル也

波母山也小口枝の枝此物在ノ處ト云ヘリ人ノ礼

日吉山王若祿上中下大社アリ

三津原

石所也

山家集

西行



只ひおと三津の原松糸はたつとちや北浦波たむ被せ

拾主

忘録

ねめりて海北溪松神とて糸はよめ面を秋此文著

愚草集

定家

すちをくも忍れれかき久しよ三津北溪松

比叡过宝泉寺

天文比叡大地に公方家度之御旅籠之本誓寺

西寺若方松院殿御父子間記出つた方松院此処に御地界之

光源院殿此処に御元殿氏藤將軍ト申ス大永六年氏澄乃

軍大内女氏與京都ヲ追出サレ坂本ニ退玉ツ屋形より小塚山城

ヲ構テ移ラセ富山細川三好共々御味方ニテ御在城ナリシカ氏植將

軍大内女氏與威勢日々盛ニナリ京都ニ御安坐故都近キ坂本ニ

御在館如何トテ屋形ハカラヒニテ浦生郡岡山ニ引取玉ツテ祿元年九

月廿二日我晴將軍三好隆前守長基石道海雲討負朽木葛川ニ

落玉ツ処細川澄元三好海雲葛川ニ押寄高国ト云戦シ高玉敗軍レ

一方朽木民部少植綱ヲ頼テ守祿四年と朽木名ニ止任ス屋形ヨリ

高島公元以テ警固サセラル天文元年三月吉公方朽木ヲ是キ龍峯

ノ不生菴ニ移リ十音和寺ヲ善福寺ニ移リ十音坂本宝泉寺十四日元

太常在寺ニ崩陣ニテ御舎上貝系屋形定頼兩路ニテ清井長政先

陣シ細川三好ヲ追立テ公方ヲ阪洛ナシ玉ツ処天文十一年公方又三好ニ打

負テ坂本ニ落下リ樹下ニ膳正資時館ニ移リシカ此時吉屋笠山ニ



城ヲ構ヘ屋形ヲ警固ニ同十六年三月屋形定頼法井長政北白  
川ヲ三好ハ戦ニ勝利ニ由リ又公方故洛アハ天文十六年二月廿七日公方  
又三好ハ原ヲ於太常在寺ニ遁克四十九年五月四日我晴將軍元  
太ニテ御地界ニ委ル元大ハ此ニ見テ

昔水曾殿上洛ニモ坂本ニ御旅陣アリテ山門ヲ頼テ後都ニ入ラハ後融  
嗣天皇新田楠四度ノ旅陣近代ハ館倉津井敷度ノ大軍皆此坂  
本ニ在城アリテ永陣ナリテ山門ノ里坊寺々多ク山門ノ領知廣キ故ニ  
元龜元年館倉津井坂本ニ永陣アリシヲ信長公怒リ至正元年九月  
瀬田ノ山岡玉林林ノ館ニ在テ城ニ山門ノ政破ルヘキ由ニ佐久間信盛武井  
肥後ノ道々菴山岡玉林林此ノ邊隔ニ相決メ諫言ス昔平ノ在津海

此ノヲ思立リ由ナレ氏群臣諫言メ止リ又其後新田氏貞敷度ノ坂本  
在陣ニ尊氏將軍討憤アリテ此企アレハ本館最初ノ佛法王法ノ根  
元ノ由来ヲ聞クニ其ノ止ヌ去年北國方旅陣アリテ此思召ニ互目カ  
ラズ御イハレ天遣テ諫言ス故ニ十百ヲナシ月ニ延引ナリ方終ニ衆引ナク大軍  
ヲ起シ堂社佛閣殘ラズ燒亡シ破滅セラレハ其上ノ百年以來ノ徳國処々  
ノ山門領ヲ没收メ明智才兵米光秀ヲ日向ウシ成レ志賀郡ヲ死所ニ則  
坂本ニ城ヲ構ヘ光秀在城ニ此時ニ代々斷絶ナク筑妻ハ坂本七人杭樹  
下主膳正ニ始メ悉ク滅ス志賀郡城ヲ荒モ悉ク攻亡サレ然レハ天正  
十一年六月明智光秀ニ後悉ク坂本ノ城ヲ滅亡シ大岡江信長記ニ詳  
シ元龜二年ヨリ天正十年止上一年明智支配ニ其後十九年過テ御當



家三至山門堂社佛間神母具アリテ寺領社領ヲ附サセラル  
雄琴 此雄琴大明神坐ス至生氏元神ノ下ソ成務天皇御即位  
元年正月七日志賀郡ヨリ爰ニ移テ下云

金葉集

數先々

松凡の雄琴比里子園少子ヲ治礼ル此比多ハ少のり

此処ノ城主ハ甲斐郡ノ先方和田兵部少輔貞光息流内左衛門貞  
氏息中務少輔貞綱同息貞純代々領ス元龜三年三月十日信長  
公ニ攻破之悉ク討死ス孫流内ニ繼居ス

小野 昔惟高親王都ヨリコニ移リ住居ナリレカ都近キヲ嫌ヒテ

後君ク畑ニ移リ玉ノ田其旧名ニ神祠ヲ建ス此間神ト稱下之リ

百人一首

考議堂

流芳生比小野の支の系忍ふれり解りてたさく人の世一妻

拾遺

定家々

爰より思比名の子也孫中ん君と称るま此比流芳生

名寄

中務

流芳世子と名なりゆく流芳生此水此比か神の祀ヲ承けり

御水 此村と貞元二年丁丑七月廿五日滿仲移リ此宿ニ後今

々滿慶と名ニ長徳三年丁酉八月廿七日ニテ死去之其像ハ横津ノ  
國多田院ニ造リ祀ヲ建リ云

石戸山 当玉名所云石戸山アリ郡里愷知シス志賀郡内狄トアリ



天文廿三年赤坂山之石佛現出天照皇之字具より此ノ領主友井  
豊前守定房屋形へ注進シ屋形ヨリ社祠ヲ達テテ敬スル記ニ  
リ又天文八年九月白鬚明神ノ上ノ山ニ岩戸ノ社ヲ建テ屋形信御下  
記ニ出ツ兩社ヲ新岩戸ノ号ニ号敬アルト云古来而記ハ知ト云

夫木

知カク

岩戸山号ノ内ノ祠也云々云々

同

好忠

石戸山号ノ内ノ祠也云々云々

同

善家

柿ノ名今も岩戸北山ノ明神ノ事ニハヒケテ此法神

苗鹿

苗鹿大明神天智天皇七年ニ建ツ在昔神ノ社ニ志賀郡ノ

大社ノ内ニ此処ノ領主苗鹿主馬ノ分同權内屋形ノ近習ニ

龍華

文徳天皇天安元年四月ニ此処ノ園所ヲ建ツ逢坂大石竜華

ヲニ園ト云大承天文ノ比公方此処ノ下生菴ト云寺ニ度ニ旅館アリ

伊賀達

此庄ヲ屋形ヨリ種村大藏太又道成ニ賜リ真野西処ヲ

領シ在任弘治永祿ノ記ニ見エタリ

堅田

古来ヨリ久シキ田記ト昔ヨリ漁ヲ業トスル処ト惠心僧都依

処ニ淳御堂ヲ建テテ佛ヲ安置道ス新田左中將我貞北園下向ノ地

勾當内侍ヲコニ預シテト記ニ出ツ後此処ニテ死セリヤ今堅田ノ出高ニ

山祓社アリコレ向ヘ内裡内侍ノ局ト村民云リ元龜元年當処子教



逆依坂井右近ヲ初メ馬場居初指劍浦源入等悉ク討死ニ  
精銅氏ノ代ニ屋形近習之彈正左衛門秀延リハ記ニアリ茂初五郎三郎  
宗清天文ノ比瑠璃臺ヲ湖中ヨリ引上テ屋形ニ上テ記ナリ堅田兵部  
少輔秀武同柱内後兵部ト云秀吉公ニ出テ永比兵部カ父内膳正  
ハ屋形ノ物以被テ勤ム宗隆民部少輔兼祐ニ当処ノ士ニテ我服將軍  
若狭ハ邦越テ時ノ強藩ニ成リ新左衛門ノ堅田士氏ハ山中ノ後見氏云  
山中ヲ領セル由ニ我服將軍ト信長公戰ル節公名ヲ頼シ味方ヲ山中  
城ニ  
是草 定家  
此ノ別堅田北沖ヤ時ヨリ見ヤ氣志ニ有ル海士ノ後火  
古今 玉 今

亦トシテぬも堅田北沖凡ノ波北松ト氷ノヨリ

真野 旧記ノ昔真野ノ長者ヨリ在リ云実説ヲ知ラズ佐々木七代ノ屋  
形經方ノ遺言所定ニ依テ元禮ノ高橋郡舟木間宮ニ居ル此廢屋  
ニ有テ今乃云者元弘亂ニ出ツ近代ノ有テ之佐々木近屋形物以テ  
其後大岡記ニ有テ茲茲今ノ有者出ツ

愚草

定家々

秋ノ初ノ白クナリ此夕々々月為カレテ此ノ時ノ海波

夫木

源三位頼政

是江流ヤ高橋ノ屋也ノ約トアリ比長ノ高橋北苑ニ見ル

衣川 崩川氏屑ク此処ニ昔鬼怒佛羅ノ法皇栖ラ入テ取タリト云其



鬼ノ名ヲ畧メ今キ又川川云々之云々山徒北軍ノ至全ノ用坊住メ

荒川治部少輔同刑部少輔志賀北郡ノ内ニ居住之公方ノ並考之

光澤院殿切腹ノ時戦死ス後跡処ニテアリ本ノ角屋形ノ遺留之

木戸 此処ニ田中坊住出ノ尉定成ト云山徒ハ八カノ士アリ惣ニ此ニ比良

ノ田中坊住アリ田中坊定成カ息田中播磨守実氏同主馬ノ考馬ノ

云元龜三年信長公ニ攻破ラレ本戸田中兩城共ニ降参メ信長公ニ属ス

木戸ノ評坊ト云山徒アリ又木戸戦前守考資氏アリ三代記ニ木戸在

ホアリ永正十五年高橋中守大満合戦ニ木戸佐太忠出ノ下アリ木

戸ノ評坊ハ後大岡ハ出テ五才シ豊後ノ門司城ヲ賜リ城主トシ大岡

江ニ出ツ木戸在出ノ尉ハ改年中然言考信ニ出テ坊リ木戸佐太忠出ノ加藤

肥後守清正ノ家臣トナリ

比良 此山伽藍草創開基ヲ知ラス寺号モ本号モ聞カス和尔金藏

坊考ニ評記シ五ケル由今ニ和尔勘左忠ノ所持スル由ナレト秘メ見セ音

ヨリ民談ニ比叡山ハ三ノ坊比良ノ山ハ七百坊ト云来レ由ニ大分信ヲ集リ

法ニ盛ニ行勤スル由之毎年三月廿音比良八講ト比良一山集テ法奉

講會ヲ終ス其日ハ必波風荒キテ湖中ニ舟ヲ出サテ云々比良ニ天満

天神鎮坐之故三月廿音法會行ハ之昔佐々木氏ノ屋形岡山ノ成

頼ノ庵寺ニ此良ニ建テ奥国寺殿ト号ス一条院御宇寛仁年中ノ

故ニ屋形代々信仰之奥国寺ノ由流今ニアリ天文七年戊戌土月三日山

門ノ宛徒八百人ノ夜討ニテ比良ヲ燒立寺廢ス今ノ火討死ノ山門前



壬子年申討止即田中坊定成屋形に注進す田中坊に申付られ扱ニ申  
和ス下記に出ツ屋形より香山に愛宕ヲ勧請シ建立アリテ比良寺定下  
号シ信仰之則大光院ニ仰テ講ヲ修セシムコレヨリ毎年忌ラテ行ハシ  
トアリ方松院殿我晴將軍ノ廟寺モ此山ニ建テ比良ノ方松寺ト号  
シテ屋形ニ國士モ參詣ス近キ慶長元和比と山嶺ニ本堂アリテ任偽ニ  
アリシカ里をキ高山ノ上ナク任カ子シカ其内ニ零落シ朽絶タルニ本堂  
任持アル処一折々才間才大蛇由是明神ニヤト云ハリ

愚草

定款々

雷と交る比良のちけや梅花松吹久せ志定比々風

後高田院御製表

新成比良のち根比々風ノ木の下のこけおけなうりり

小松

小松禪林坊琳海ノ山徒九ノ家ノ士ナリ後小松内膳正同市松記ニ  
見ユマニ福清内匠ニヤト著アリ記ニ出ツ永正十五年大溝ノ合戦ニ傷アリ  
記ニ出ツ源氏欽公平治ノ乱ニヨリ落ナリ暫ク忍玉ヲニ男右京進領永  
公京都ニ深子ヲ負フニテ逝去ト又平氏此ト追来リ又ノ為ニ討死シ玉  
フニアリ其墓アリ信ヲ堂白流存ニアリ信禱ノ神祠アル此地遺緒アル由  
之又此処ニ鑑岩リ云田記アリ赤ハゲノ岸ノ上ニ武者ノ形ニ文ル  
大石アル之造ニ木造渡判官道譽ノ嫡子京極判官秀孝銅  
官軍ニ討死此ト引退キ終ニコレニテ討死之評ニ大平記ニ見ヘキ  
白鬚大明神御鎮坐之八日吾神事アリ此社ノ南北ニ四十九体ノ



石佛アリ弘法大師建立云云又天文廿二年屋形ノ築起云云田中輝豆  
与實光奉行ニ建立下武鑑ニ出タリ

詠藻

後成々

子日一ト小松と海と今日見思ハテ百々子代此歌行ノム

夫木

圓熟々

夕波也古々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

振川

仲実々

示波也小松と海と今日見思ハテ百々子代此歌行ノム

和尔

此庄小松ノ字ハ考議管皇ノ在所ト存ト管皇振リ多田治ノ名木ア  
リ和尔ノ金藏坊九郷ノ領主譚政家ノ山門此ハ在リ士アリ後ト此

尔越後与信方同豊後也秀成同豊五節矣勝ト記出ツ元龜三年

三月木戸田中和尔悉ク信長公ニ攻ラレテ洛去ス孫流外ニ世世居ス

比良山ノ記ハ此歌ニ在下云ヘリ

志實郡誌



